

令和7年度第2回原町区地域協議会 会議録

① 日 時：令和7年5月30日（金）13時30分～

② 場 所：南相馬市役所 本庁舎3階 第1会議室

③ 委 員

（委員数15名）		
出席委員13名		
会 長 平間 勝成	副会長 志賀 ゆかり	委 員 逢坂 晃
委 員 小林 五月	委 員 坂下 悦子	委 員 前田 一男
委 員 半谷 眞知子	委 員 田中 章広	委 員 鎌田 文代
委 員 貝塚 大暉	委 員 鈴木 洋道	委 員 藤原 ヒロ子
委 員 長川 清隆		
欠席委員 2名		
委 員 中村 博之	委 員 鈴木 香織	

④ 説明者：

鹿島区地域振興課 係長	田中 俊行
副主査	大川 晃典

⑤ 事務局：

原町区役所長	渡辺 裕
原町区地域振興課 課長	戸浪 誠
原町区地域振興課 課長補佐	館野 幸一郎
原町区地域振興課 主査	中林 順子

1 開会

○事務局 委員の過半数が出席のため、会議の成立を確認

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 会議録署名人の指名

坂下悦子委員、前田一男委員を指名

(2) 書記の指名

原町区地域振興課 中林主査を指名

(3) 報告事項

①南相馬鹿島サービスエリア周辺開発基本計画（案）に係る

パブリックコメント手続の実施について…【鹿島区地域振興課】資料1

○会長

資料が多いので、まず概要資料についてご意見ご質問ありましたらお願いします。

○小林委員

「その価値を広く伝える情報発信やPRが十分でない」とあるが、誰に向かって言っているのか。市全体か民間なのか。

○鹿島区地域振興課係長

発信が十分でないというのは、「誰が」ということではなく、行政の不得意としているところです。鹿島区においてもいろいろな情報発信はしており、セデッテかしまは150万人の方々が利用しておりますが、連休になると本線まで渋滞が起きているように、キャパシティが足りていないところもあり、利用者を逃しているところもあります。そういった施設としての規模感の問題が一つ挙げられます。あとは市の最大の行事である相馬野馬追につきましても、年間を通して来訪された方々へのダイレクトな体験ですとか、情報を提供する機会が限られているのではないかということの考えのもと、こういった書き方にしました。

○小林委員

南相馬市の情報発信は、まずは市役所でやるべきだと思います。市役所で南相馬市はこういうところですよという情報発信をして、それから民間とタイアップをして、自然や海産物、原発事故・津波被災からの復旧復興について、市でPRしていくべきです。

○鹿島区地域振興課係長

PRについて行政側が主導的に行うべきであろうというご意見については、まさしくその通りです。市としても、PR事業を展開はしているものの、それが全て皆様に届いているのか、課題として挙げられるところです。

○小林委員

南相馬市はこういうところだと東京とかに出ていってアピールしない限り、こっちを向いてもらえない。逆に津波で終わりました、原発事故もありました、あそこには行きたくないという人が多いから、今はこういう状態になっていると思う。

復興をどんどんとアピールした方がいいと思います。よろしくお願いします。

○会長

2点聞きたい。

1点目は、4車線化すれば、利用が増えるような見通しがあると説明があったが、4車線化しないから利用しているとも言える。渋滞すると、あそこで入って休もうかとなるが、4車線化するとストロー現象で、仙台の方に一気に行くとか、関東方面に抜けるかもしれない。今セデッテかしまの周辺にはサービスエリアがないから、たまたま利用している人も少なくないと思う。そこを見誤って、セデッテかしまのサービスへの価値があるから利用していると捉えて、事業規模を拡大していくと、リスクがあるのではないか。今の既存のエリアを事業受注させる方法に力を入れて、拡張には慎重な方が良いと思う。箱物だけ作って、後からそれが無用の長物になって閉鎖され、そして従業員は解雇されるということに将来ならないとよいが。現状はいろいろな条件下でサービスエリアが使われている。片側2車線になってスピードアップされていくと、通過されてしまうのではないかと心配している。4車線化で、利用が増えるという見込みを再考してほしい。

2点目は、新エリアに宿泊施設とか自然体験とか出てくるが、これは既存の宿泊業者との調整が必要になると思う。自然体験についても北泉にキャンプ場

ができており、その利用が影響されると、どちらも駄目になるかもしれない。相乗効果のために、既存の施設との競合についてはどう考えているのか。

○鹿島区地域振興課係長

サービスエリアの利用について、立地的な優位性というものは当然あると考えています。

資料でも触れていますが、ガソリンスタンドがあつて物販飲食がある施設が、南相馬鹿島サービスエリアの周辺にはほとんどないから利用しているという状況もございます。加えて指定管理者である野馬追の里が、トイレが綺麗でしっかり休憩できる施設を運営していることから、利用いただいているものと思っております。

東北自動車道の福島・郡山を走っている車が1日約4万台、南相馬鹿島サービスエリアを通過する車が1日約1万台ということで、4倍の差があります。常磐自動車道の4車線化が実現した場合に、東京―仙台間について、常磐道を通った方が近い、急カーブや勾配が少ない、降雪量が少ないという好条件が揃っていることから、東北道に比べ常磐道は潜在的な魅力があるのではないかと考えており、利用者数が増加するという記載に繋がっています。

施設については、最終的には公募型の民間事業者の提案を受けて決定しますが、今後PPPアドバイザー業務の中で、我々が定めたコンセプトを実現するために、何が必要だろうところを詳しく精査していきます。

2点目において、地元業者の宿泊温浴ですとか、自然体験が出てきました。が、我々が一番やりたいことは地元の地域資源を発信し、活用するところです。今後、設計・建設・運営する事業者の公募をしますが、やはり地元の事業者の力は必要であると考えています。具体的に言いますと今後PPPアドバイザー業務の中で精査をしますが、公募するにあたって地元業者も入っていた上での開発を進めてまいりたいと考えております。

補足になりますが、地元事業者との対話を、今後進めていかななくてはならないと考えておりますので、官民合同チームとの連携によって、「プラットフォーム」というものを今作ろうとしているところです。この中でいろんな意見交換とか、対話そして勉強会も進めていきたいと考えております。

○前田委員

私は、商工会議所の立場と旅館組合としての立場と二つあるので、相反する話かもしれませんがご了承ください。

意見になりますが、基本的にこの施設の拡充に賛成です。大いにやって、地域の復興の一つの拠点としてこういうものがあると全国に知らせていければ大

変いいものになると思っていますけれども、計画を聞いていてあいまいな部分が残っていると民間の立場で思いました。

4車線化ができた暁にはというふうなお話の中で物事が進んでいるようですが、NEXCOとどう話をしているのかということをお聞きしたい。4車線化を念頭にしている計画なのか、あるいはいつできるかわからないけれどもできた暁にはということなのか、その辺によって我々がそれに対してどう考えるかということが決まってくるので、教えていただかなければならない部分だと思います。

同じような計画が大熊町にあります。サービスエリアは70キロ圏内に1件ぐらいが適正だと聞きましたが、40キロ圏内にもう1件ができます。そこに負けないような施設にしていかなければならないし、地域の特性を出さなければならない。その点をどうお考えになっているのかがあまり明確になっていない。野馬追にこだわるのが一番いいのかもしれないけれども、施設を作ることによってどのような経済波及効果が期待できるのかも、もっと考えなければならないと思います。

さらに旅館組合の立場で話をさせていただくと、会長がおっしゃった通り、私どもは一度もお話を承ったことはありません。この間、組合長にこれを見せたら、見てないという話でした。実は、原町の宿泊施設の宿泊客数は、どんどんホテルができたこともあり、稼働が7割として1日700人ぐらいです。そして大体、客室の単価が7,000円ぐらいです。さらに飲食や買い物を含めると、おそらく1万円を超えます。年間で多分30億円程度地域に貢献しています。本件について、宿泊施設として収入が2億8000万円と出ていますけれども、宿泊施設は何室規模でどれぐらいの単価で2億8000万という数字を打ち出しているのか、そして2億8000万の宿泊施設は相当大きいです。そのような施設を作ると、旅館組合としては期待はしながらも賛成できないかもしれません。旅館組合として地域の復興に関しては10何年間やってきたものですが、冷水かけられるようなものが出てきているので、十分に話をさせていただかなければならない。仮に我々の旅館組合の中で誰かがやりたいというのであれば、それはまた話は別ですが。地元の業者ではなく外資系の企業が来て運営をすると、他の支払い場所もここではなくて別なところに持っていかれるというような状況になるので、計画に少し危うさを感じる部分です。その中でやるとすれば、ぜひとも頑張ってください、旅館組合とも調整した上で進めていただきたいと思います。

細かい事を更にお話させていただくと、今の問題をもう少しきちんと捉えておかれた方がいいです。飲食に関して専門なのでお話ししますが、カツオについて店舗の調理場では作れないから無理だというような話がありました。今あ

る施設の問題点もよく吟味して作らないと、計画がうまくいかないと感じました。

質問というより、商工会議所と旅館組合として意見として述べさせていただきました。

○鹿島区地域振興課係長

まず計画自体の不透明さのご指摘につきましては、市として初めてこの官民連携という手法を使った発注や開発を行うという現状が、理由として挙げられます。施設の配置が決まっているわけではない状況で、収支のシミュレーションまで実際に作った意図としては、民間事業者にも見ていただいて、いろんなご意見をいただいた上で、次のステップに向け、物事の整理に繋げるための広報と考えている次第でして、どうしてもこういう見せ方にならざるを得なかったというところです。

続いて全線4車線化につきまして、本編の49ページに利用者数を現在の150万人から250万人を想定しますという記載をさせていただきましたが、このプラス100万人について、先ほど申し上げた全線4車線化の増は盛り込んでいません。

同じ常磐道の沿線上にあります大熊の道の駅の県内最大規模の開発が新聞に先日掲載されました。この影響をどう見込んでいるのかという部分につきましては、本事業における影響はゼロではないと思います。ただ一方で、4月に大熊町役場に行きまして担当者と話を交わし、基本計画の説明を受けてきました。その上で、本事業との大きな違いとして、我々は地域資源を地元の事業者さんを入れた中で発信することを考えています。これが我々の強みだと思っております。大熊町は原発事故の影響で、地元業者が少ないことからその点が全く違うと考えております。そういった強みを生かした計画としていきたいと考えています。

5点目にありました旅館組合に対し、共有そして対話がなかったことにつきまして、ここはお詫び申し上げる部分ではありますが、今後につきましては、調整や対話をさせていただければと考えております。

○前田委員

資料において4車線化をうたって、しかもそれは考えていないと言われると、首をかしげる話です。

これは少しポジティブな話ですが、どうせ馬場を作るのなら、原町に今サラブレッドでJRAの重賞を勝った馬を飼育されているところが何件かあると聞きました。地域の特性にこだわるのであれば、JRAとも相談した上で、そこ

の馬場に持ってくると会いたくなる、お世話をするような形で人の出入りも出てくると思います。

また、甲冑の試着と写真撮影についてVR等で後ろに馬原が見えるような形にした上で、そういう写真が撮れる場所を作ると、そこには人が集まって来ると思うので、そういったことも考えてください。

最後に2億8000万円というふうな売り上げを宿屋で計上するには、100室以上の客室が必要です。閉鎖された高速道路の上に100室規模のものを作ってそこで商売をされることに関しては、いささか疑問を持っているということを付け加えて質問と意見を終わらせていただきます。

○田中委員

前田委員がおっしゃったことに集約されていると思ってしまして、私も同じ考えです。一市民としてのこの計画の捉え方と、会社経営をしている人間の捉え方と、復旧復興を願っている震災後の被災者の1人としての立場で少し意見が分かります。

非常に相反する意見で申し訳ありませんが、私も前田委員と同じく総論としては賛成です。アンケートのPRが足りないのではないかという意見は、市民にこういう声が多いという書き方ですが、確かにその通りだろうと思います。今後地域で不足している、もしくは地域にこういったものができれば、より我々の震災後の復旧復興に拍車をかけられるのではないか、という意味合いで賛成です。

ただ、町に既にある機能とか、民間でやっているものと重なる領域のものは、よく気をつけていただかないと、官が主導して民業を圧迫する一番悪い結果になりかねない。かなりのコストをかけて住民を巻き込んで、合意形成して作っていくのであれば、やはり作った後に民間でこの市で商売している方が泣きを見るようなことがないように、先ほどの宿泊施設を想定するとか、野馬追に関する施設を想定すると決定事項ではないのでしょうかけれども、立派な施設ができたけれども数年後に負のレガシーにならないようにする必要があると思います。

それから超少子高齢化の状況で街をどんどんコンパクトにしないでいけないのに、こういったハードウェアを非常に拡充拡大していくというのは、時代に逆行するやり方ではないか。どうせ作るのであれば今までになく、しかも市民が前から望んでいたような機能を付け加えるなど、民間の商売でかぶる領域がなく、新たに地域の間が喜ぶ、外に自慢する、招き入れたいというきっかけになるようなものをじっくり考えていかなくてはいけないと思います。

全体概要としては非常にいいなと思いつつも、宿泊の施設も飲食も地域の人が、サービスエリアをもっと使っていくことができると良いです。

サービスエリアは高速道路の付帯施設設備ですので、高速道路を利用しない一般市民は関係ないですが、神奈川の海老名のサービスエリアのように市民が生活上においてサービスエリアを使う有効な機能を付け加えようという方に振るのか、あくまで観光客をもっと呼び込みたくてこの4車線化したとしてもストロー現象にならないようにここで留め置くような必ず誘引誘客するような強いコンテンツを持ってくるのか、どっちを向くのだという考えも、もしくは両方抱き合わせでやりたいのかというのも、しっかり整理してほしい。

施設の拡張は良いですが、そこに入る機能がこれでよいのかどうかという議論は我々もできないと思います。

コミュニケーションを取って、合意形成していただきたい。こういうものができて市民生活が楽になったとか、楽しみが増えたという施設になればと願っています。

野馬追の伝承施設は市立博物館での展示内容とは全く違うようなものを想定しているのでしょうか。馬術体験もできるというのだと新しい機能だと思いますが、先日アメリカから親戚が10名弱来まして相馬野馬追の施設が見たいといわれたのですが、到着が4時頃で市立博物館を見せてあげることができなくて、JR原ノ町駅の構内の一角を案内し、駅前の野馬追の大きな写真パネルの前で記念写真を撮って野馬追気分を味わわせて終わってしまった。もっと野馬追を武器に使おうと何十年も言われてきているのに、まだしっかり武器を作れていない、運用がうまくいっていないと思っているので、サービスエリアの拡張エリアに作ってほしいと思いがあつつ、作った方がいいけれども、結局プラットフォームが分散してしまって、あそこに行けば必ずこれだけ満足できるという施設になるのか、我々市民側も考えなければいけないと思います。

○鹿島区地域振興課係長

この事業の目的は、サービスエリアに年間150万人が来ている中で、ここをフックとして好きになる方を増やしたい、そしてまちを元気にしたいということです。

民間事業者との調整というのは、申し上げた通り、今後気をつけなければいけないということで、肝に銘じてまいりたいと考えております。

今後このような施設を作った方がいいのではないかという、民間企業からの提案をいただくことで、当然社内の稟議や融資にあたって金融機関のチェックというところを踏まえての提案を受ける形になります。また、地元事業者との調整は引き続き、当然やっていかななくてはいけないと考えております。

最後の伝承館の役割について、あくまで現時点でイメージするところです。田中委員がおっしゃった通り、乗馬体験ができたり、鎧を着てそこで写真を撮れたり、というようなことも想定しておりますし、ここに来れば「野馬追」というものが分かり、そして今申し上げた体験ができ、あとは今不足していると言われる、馬具の制作・修繕する方の人材育成の場としても、活用できる方向で進められれば良いのではないかと考えており、博物館とは違う役割にしていきたいと考えています。

○田中委員

問題提起だけになりますが、今のあくまで例として、甲冑の着付けとか乗馬体験施設みたいに、新しいものを例示として挙げた部分がありますが、長く滞在する場所ではないと思います。

サービスエリアの用途は、トイレや休憩、お土産を買うくらいだと思うので、ここで何時間も過ごすためにわざわざ来るといって、かなりのコンテンツが必要だと思います。宿泊施設を置いた場合は、外には出られないことになります。街側の方に出る道もありますが、鹿島区の中心市街地、足を伸ばして原町小高まで行く観光客は、そもそも原ノ町駅前に泊まると思う。

宿泊施設を作るのであれば、誰を向いて・何を目的として・そのために何が必要か否か、ということ一度しっかり考えていく必要があると思いました。

○会長

一般の道路からの利用者を30万人から59万人と想定していますが、アクセスが悪いのではないかと思います。先ほど田中委員が言ったように高速道路だけの人はトイレ休憩かもしれない。でも一般の人はわざわざそこに来るのだから、トイレだけではないと思う。奥で食事したり、買い物したりする人たちの利便も図らなければいけない。最終的に250万人という今の想定から100万人ぐらいの増加を狙うのであれば、一般道から入りやすい地元のお客さんも大事にしたサービスエリアであってほしい。そのためには道路のアクセスをもう少し考えたらよいのではないかと。

○藤原委員

鹿島区の知人と話したが、セデッテかしまに行ったことがないと言っていた。私も高速道路からしか行けないと勘違いしていた。一般道からも行けると聞いて、1人で行って見たら通過してしまい、入口が分からず戻って入った。地元の人が行きやすいような道路を是非ともお願いしたい。

○鹿島区地域振興課係長

看板が小さいというお声は多方面から聞いており、少し時間はかかりますが、建設業者や福島県相双建設事務所と情報共有を図っていきます。

○逢坂委員

サービスエリアは全国に相当な数があるが、宿泊施設を持っているサービスエリアは、ものすごく少ない。滋賀県や広島県のサービスエリアの利用状況を調べた方が良い。オートバイ等で遠くまで移動するような人は便利だが、観光目的の人は高速を降りて泊まった方が便利になる。既存でやっているところを調査して、それから考えていただいた方がよいのではないかと思う。

○鹿島区地域振興課係長

宿泊施設のあるサービスエリアには非常に少ないということは認識していましたが、今後実績を見ながら検討していきたいと思います。また、宿泊につきまして、バイクやトラックのドライバーといった方々をターゲットとしてもよいのではないか、というような話もいただいております。一方で観光目的の方には、馬を眺めながら朝起きられることが、差別化したものとして想定されるというご意見もいただいております。先行事例を調べながら、検討協議していきたいと考えております。

○志賀委員

私は専門分野ではないので、すごくよい施設ができるのだと思いました。色々な意見を聞くと、その都度計画を精査していかないと、皆さんが満足できるような施設にならないのかなと思いました。

鹿島のサービスエリアが、全国的にここでないとできないというのができるのであれば、すごく良いと思います。一方で、きちんといろいろな方々と話し合いしながら、この土地に行って楽しい、ここにいて楽しいと思えるような施設にしていきたいと思います。

○前田委員

物販をやるのならば、どうしても大熊町の施設を考える必要がある。相馬の浜の駅は海産物の品ぞろえが相当あるので、海産物や地元の農産品を利用すると良いのではないか。

○鈴木（洋）委員

建設業としての立場から言うと、民間事業者が一括して設計管理から施工までを請け負うという形になると思いますが、地元業者も入れるような仕組み作りをしていただきたいと思います。一括で請け負えるような民間業者がおり、それを選定すると、市では考えているのでしょうか。

○鹿島区地域振興課係長

請負の説明につきましては、概要版の３ページの右上図になります。当然設計から入りますので、設計業者、建設業者、運営関係の各分野に精通した業者等を想定しております。今回の事業のために、組織された事業者を選定するという意味では、鈴木委員のお見込みのとおりです。

○鈴木（洋）委員

今はどのような段階なのか。受託できそうな事業者を選定しているのか、応募を待つのか。

○鹿島区地域振興課係長

基本的には公募を待つ状況です。円滑に事業実施できるよう、既に 70 社ぐらい民間事業者と意見交換等々をしています。基本的には公募になりますが、我々から情報発信をしていかなければならないと思っております。

○小林委員

この計画が 5 月 9 日の新聞に載った。地域協議会で審議をしてそれから議会に諮るべきではないか。

もう一点、できれば地元企業を使って欲しい。地元企業に働く場を提供してもらい、南相馬市に税金を落としてもらおうと良い。

○鹿島区地域振興課係長

この事業において地元の方が潤わないといけないと思っておりますので、念頭に置きながら進めてまいります。

新聞に掲載された件については、この計画の素案をまとめるにあたり、外部の方で組織した検討委員会を立ち上げ、いろいろご意見いただいております。委員会において取りまとめをしたという内容でございました。地域協議会との順番が逆になってしまったということはお詫び申し上げます。

○田中委員

資料５３ページ右下、概要資料２枚目の左下「まちを再生する」という見出しがあるところです。移住者に対象を絞っているようにとられるのではないかと。そういう意図ではないと思うが、震災後避難せずに残って住み続けている人ではなく、移住した人や家族だけがここに働きやすいように見える。地元の農業経営者の方が生産した地場産品をすぐ売れる場所は、移住者だけでなく１００年来ここに住んでいる農家も、同じく望んでいると思う。

移住者のためだけの施策ではないので、地域の一体感を阻害しないような表現をするべきではないかなと思います。

○鹿島区地域振興課係長

田中委員がおっしゃる通り、移住者というところがフィーチャーされすぎていると考えられます。移住者やＵターンと書いてあるものの、対象が限定して見えるのであれば、誤解を生じないように、書き方等の工夫を検討してまいります。

○鎌田委員

概要版資料２ページ「①町に人を送り出す」とあります。ここはどういったイメージなのかよくわかりません。鹿島区真野川親水サイクリングロード等なのでしょうか。

○鹿島区地域振興課係長

真野川親水サイクリングロードも当然含んでいます。それに加え、まちの魅力について、先行事例としてサービスエリアで理解してもらった上で、まちに誘導するためのツアーなどをイメージしています。

また情報発信を含め、「まちに人を送り出す」ための価値や魅力を作り出すことも、イメージしています。

○鎌田委員

もう一点、女性としての意見ですが、仙台や東京方面に行く中間地点としていろんな方が利用していることは分かりましたが、遠くから来ている人がそこで食事をしたい、飲食を取りたいという場合に、他の委員の意見にもあった通り、地元のものが食べられることが魅力になると思う。現在はサービスエリアの食堂は、浪江焼きそばしかない。

私がいつも欲しいなと思うのが、ホッキのおにぎりです。あれはすぐ完売になっています。既存のエリアについても、もう少し魅力のある、この地域に来

たからこそ食べていけるものなどを提供していただければ、お客さんもトイレだけでなく、特に期待していなくても来た場合でも、見直していただけるのではないかと思います。

○鹿島区地域振興課係長

地元の食材を食べていただくことの大切さは、おっしゃる通りだと思います。このサービスエリア周辺開発にとっても、そういう視点が大切だと思っております。

実はセデッテかしまの味噌タンメンの味噌は、地元店舗の味噌が使われています。ただそれを知って食べている人が現状おらず、このような点がPR不足だと感じています。

○小林委員

基本的にはこの計画には賛成です。でも、高速道路を利用する人はトイレ休憩、食事、休憩で終わってしまうと思う。

この事業エリアでは、高速道路を利用している人が、ここで2～3時間過ごすことはあまりないと思う。むしろ地元民が通いたくなるような施設にすべきなのではないかと思う。

どんな施設があったらあそこに行きたくなりますか、というアンケートも必要ではないか。地元民が鹿島に行ったら遊ぶところもあれば食べるところもある、そういう施設を目指していただきたいと思います。

○会長

最後に2点私からもお伝えしたい。

地元の人も行きやすくなる施設であれば、集客力も高まるのではないかと思います。

もう一点は田中委員が言ったとおり、移住者にこだわる必要はあまりないのではないかと。

この他意見がないようですので、以上で質疑を終わります。

(4) その他

○事務局

次回地域協議会は、7月30日午後1時半からです。本日と同じ本庁舎第三会議室で開催予定です。詳細につきましては、今後ご連絡いたします。

5 閉会

○会長

それでは以上をもちまして本日の会議を終了します。ありがとうございました。

以上のとおり相違ありません。

会長

平間 勝成

会議録署名人

坂下 悦子

会議録署名人

前田 一男
